

「第6回胆振東部森林再生・林業復興連絡会議」議事録

日時 令和2年10月22日(木) 13:30～15:30

場所 厚真町総合福祉センター2階青年室

出席者 別添「出席者名簿」のとおり

- 議題
- 1 胆振東部森林再生・林業復興連絡会議設置要領の改正について
 - 2 各取組の進捗状況
 - 3 胆振東部地震による被災森林の再生に向けた対応方針の改正について
 - 4 今後のスケジュール

議事

座長(土屋森林整備課長)が進行。

(1) 議題1について

- ア 事務局(森林整備課 大塚課長補佐)から資料1説明
- イ 質疑応答(有・)
- ウ 構成員からの情報提供(有・)

(2) 議題2について

- ア 事務局・構成員から資料説明
 - ・資料2-1説明(事務局:治山課 土岐課長補佐、森林整備課 橋本主査)
 - ・資料2-2説明(事務局:森林整備課 大塚課長補佐)
 - ・資料2-3説明(構成員:胆振森林室 名取普及課長)
 - ・資料2-4説明(事務局:林業木材課 菅谷課長補佐)
 - ・資料2-5説明(事務局:道有林課 本阿弥課長補佐)
 - ・資料2-6説明(構成員:林業試験場 蓮井主査)
- イ 補足説明(構成員:胆振森林室 福士森林整備課長)
 - 7P(資料2-2)と13P(資料2-5)について、被害木整理11haは30haになる(19ha増加する)見込み。
- ウ 質疑応答(・無)
 - 資料2-6について
 - ・森林総合研究所 伊藤森林育成研究グループ長
 - P22の図では固結した土壌がかなり多く見られるが、木の根が入っていきける硬さなのか。
 - ・林業試験場 蓮井主査
 - 固結した土壌は根が入っていけない硬さ。
 - ・東胆振森づくり協同組合 田中専務理事
 - この土壌だと植栽木の根が伸びることができないのではないかと。
 - ・林業試験場 蓮井主査
 - 現在、植栽試験中なのではっきりしたことは言えないが、樹種により土の硬さへの抵抗性は異なる。
 - ・座長(土屋森林整備課長)

P21、22の土壌の硬さはこれから植栽を進めていく中で重要なデータであると考えており、調査箇所がまだ局所的で、全体を見ていないため、これからさらに調査する必要がある。

・林業試験場 蓮井主査

土の硬さだけでは植生基盤を評価できないので、透水性も調べて総合的に検討しているところ。

○ 治山事業について

・厚真町 宮主幹

国の直轄砂防の上流に、途切れている町道を今後復旧していく区域があるので、治山工事が必要な箇所を今後も継続して相談させて頂きたい。

・治山課 土岐課長補佐

町道を復旧する箇所も含めて、今後治山事業を実施できる箇所について積極的に進めていきたい。

○ 資料2-3について

・座長（土屋森林整備課長）

森林所有者で、植林や緑化を希望している方はどれくらいいたのか。

・胆振総合振興局森林室 名取普及課長

植えることが可能ならば植えたいと言う方は33人。

エ 構成員からの情報提供 ・無

・森林整備センター 伊藤水源林業務課長

水源林造成事業についてパンフレットにより説明。

近年多発する災害を踏まえ、センターとしても被災した森林の早期復旧に努めたい考えであり、現在、実施可能な箇所を検討しているところ。

・安平町 下谷主事

道有林内の治山事業による復旧について今年も協力を得ている。

町独自としては、例年同様、造林、下刈、主伐事業等を行っており、今後の復旧復興も検討して進めていきたいので協力願う。

・厚真町 宮主幹

昨年度設置した厚真町森林再生林業復興検討会議で森林機能の回復に向けた対応方針をまとめようとしているところ。

森林再生の取組として、土が堆積しているところへの地拵え、植栽を優先的に進める。

林業復興の意味では、崩れず残った森林に対する計画を立て直すことが大事との考えから、集中的に林業ができる場所を抽出した上で計画を立てていきたい。

今年度は、堆積土の発生場所、残地森林の位置や面積規模、どのようなタイムスケジュールで進めるのかといった具体的な行動計画を策定する。

また、町民と地域の森林との関係性を再構築していくため、町民に参加型の植樹会等を企画する予定。町外の方も参加できる機会も設けたい。

林道復旧については、林業専用道規格相当の路網開設を進めている。事業費が高くなる課題があるので、道の支援を受けながら進めたい。

・むかわ町 太田参事

町内の治山・林道工事は、今年度をもって林道1件を残すのみ。

災害復旧工事としてではなく、被災林道を来年復旧しようとしているところ。

むかわ高校の寮・公営住宅を今年再建しており、今月いっぱい完成する予定。部屋の案内等に被災木を使い、メモリアルとして残していく動きがある。

(3) 議題3について

ア 事務局（森林整備課 大塚課長補佐）から資料3説明

イ 質疑応答（有・無）

ウ 構成員からの情報提供（有・無）

・東胆振森づくり協同組合 田中専務理事

事業計画では、少量分散化している条件のよい箇所から被害木整理や植栽を行うことになるため、現場に入って何ha植え付け可能かをモデル的にデジタル化する必要があるのではないか。

・道有林課 本阿彌課長補佐

植栽に向けては、現地へのアクセス道が必要であり、これらの路網を費用対効果が高い形でどう復旧していくかが重要。道有林としても実効性のある事業計画を作っていく考え。

・厚真町 宮主幹

道の対応方針の改正に向けた取組は、町として大変ありがたい。

森林整備や森林再生においては、治山や林道のように目標設定ができなかったもので、やるべき対象面積がある程度把握できるのは今後進める上で有益と考える。

(4) 議題4について

ア 事務局（森林整備課 大塚課長補佐）から資料4説明

イ 質疑応答（有・無）

ウ 構成員からの情報提供（有・無）

(5) その他全体を通じた意見等

・林野庁

林野庁としても森林復旧や加速化に向けて、可能な支援について協力していきたい。

また、被害の全体像、全体の計画が見えることが重要であると考えているので、引き続き道と連携しながらできることを今後も検討していきたい。

・厚真町 齋藤参事

災害復旧に関しては、まだ時間がかかるので、胆振総合森林室（苫小牧市）に設置している復旧体制の継続を、是非お願いしたい。

以上